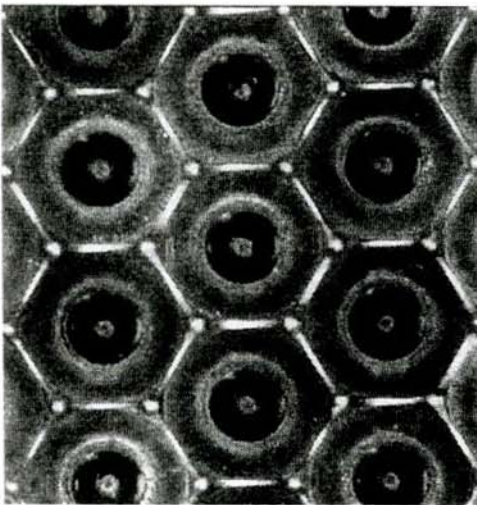


# 最先端武器にIPO狙う

関西では電子部品や環境関連など先端技術の開発を進めるベンチャー企業が、新規株式公開(IPO)を目指す動きが相次いでいる。インターネット関連企業の急成長が頭打ちになる中、ベンチャーキャピタル(VC)などに、新たな市場を切り開く技術系ベンチャーを再評価する機運も高まってきた。大手電機メーカー技術者出身の経営者が多いのも特徴だ。

## 複数VCが出資

半導体ベンチャーのG ENUSION(兵庫県 中小企業投資育成など複



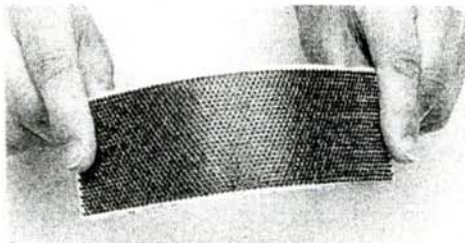
数のVCから計七億四千万円の出資を受けており、製品発売で経営が軌道に乗る三年後をメドに株式公開する計画だ。

## 欧州向けに計画

大手メーカー各社がしのぎを削る省シリコンの太陽電池を開発しているのはクリーンベンチャー21(京都市、室園幹夫社長)。同社の球状シリコン太陽電池はアルミ基板上に成型した六角形のくぼみの底にシリコン球を埋め込み、壁面に当たった太陽光を中心に集光させる。価格の上昇が続くシリコンの使用量を現在の五分の一に抑え、発電量あたりの製品価格を割引き下げることになった。

## 転送速度10倍/シリコン抑制 新市場開拓し存在感

クリーンベンチャー21の球状シリコン太陽電池の拡大写真①。折り曲げられるため曲面への設置も可能②



松下電器産業で太陽電池の開発に携わった室園社長が〇一年に創業。来年一月から太陽電池の需要が急増している欧州に向けて販売する計画。大手VCなどから受けた出資は八億円。生産設備の増強が必要となる〇九年に上場し公募増資する方針だ。

このほか、半導体ベンチャーのマイクロシグナル(京都府宇治市、渡辺国寛社長)は一〇年の株式上場を目指す。半導体メーカーから独立した渡辺社長が立ち上げた同社は、光の信号を電気信号に変える光ICを開発する方法に比べて、通信の精度が高く速度が落ちにくい特徴があり、産業用ロボットの制御動作の精度を二倍以上に高めると期待を集めている。

新興市場では上場企業への成長期待の薄れから株価の低迷が目立つ。テコ入れにジャスタックは技術系ベンチャーを対象にした新市場「NEO(ネオ)」を始動。関西発ベンチャーが存在感を増す機会が増えそつた。